

## 本時のねらい

・道を尋ねられた場面において、フロアマップを用いて、即興で相手の求めに応じて英語で道案内ができるようになる。

## 本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・ロイロノートに送信した単語やピクチャーカードを使うことで、ペアになり自分たちのペースで確認、練習することができる。
- ・ALT からのブランク入りの道を尋ねる映像に対し、英語を使って相手の求めに応じた道案内を録音する。録音機能を活用することで一斉授業の限られた時間内に必要な受け答えができるかを確認することができる。
- ・会話で使った表現をロイロノートに記録し、提出することで、本時に学んだことをふりかえることができる。

## 活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・ロイロノート
- ・デジタル教科書

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあての提示 「ショッピングモールで道案内しよう！」</li> <li>・ウォームアップ動画視聴 本時に関連する簡単な会話を視聴し、大まかな内容を捉える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書の会話をテレビモニターで視聴する。</li> </ul>
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書に掲載されている会話文を視聴 会話文を視聴し、内容を確認したあと、読み練習をおこなう。</li> <li>・重要語句確認・練習 黒板に掲示された重要フレーズの発音を全体で確認したあと、ロイロノートのピクチャーカードを見ながらペアで練習する。【写真1】</li> <li>・教科書に掲載されている会話文をリーディング</li> <li>・ペアで会話づくり ペアごとに違う現在地と目的地のカードをロイロノートで送信し、相手の求めに応じて道案内ができるように練習をおこなう。【写真2】</li> <li>・発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書の会話をテレビモニターで視聴する。</li> <li>・発音練習したフレーズはタブレット端末上で確認することができるので、自分たちのペースで教え合いながら取り組むことができる。</li> <li>・ICTを使うことで、教科書で使われている地図を簡単にアレンジできるので、ステップアップした教材を作成し、提示することができる。</li> </ul>
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「マット先生に道案内しよう」 ALT の道を尋ねる動画を視聴し、道を教える音声を即興で録音する。【写真3】</li> <li>・ふりかえりシートの記入 ALT への道案内で使用した英語を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロイロノートで ALT からの道を尋ねる動画を視聴して、そのカードのブランクに自分の音声を録音し、ALT とのやりとりを完成させる。</li> <li>・ロイロノートのカードに本時の学習した重要表現を入力し、提出する。</li> </ul>

## 1 人 1 台端末を活用した活動の様子



写真1 ピクチャーカードを見ながら、ペアで重要フレーズを繰り返し練習している様子



写真2 地図を見て、与えられた目的地までの道案内を考えている様子



写真3 ALT に道を教える英語を即興で録音している様子

## 児童生徒の反応や変容

・本時のまとめとして学習した重要表現を活用した即興のやりとりを完成させる課題を出した。ALT からの道を尋ねる動画のブランク部分が短かったため、応答に間に合うように何度も録音し直す姿が見られた。授業時間内に提出できた生徒も下校後にリトライし、録音カードを再提出する生徒もいた。よりスムーズな会話ができるように家庭でも主体的に何度も練習していることがわかった。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・中学1年生の道案内は「エレベーターを使って」「2階に上がって」「右に曲がって」等の簡単なフレーズを使っておこなう。1ページにたくさんの表現が出てくるので、タブレット端末を使って同じフレーズを繰り返しペア練習することで定着をはかる。英語が得意な生徒・不得意な生徒が同じ教室で学んでいるので、ペアで会話づくりの活動をする場合、どのような地図を使用することがベストなのか考えた。教科書とまったく違う地図を使うとスローラーナーにとってはハードルが高くなり、同じ地図を使うとファーストラーナーには物足りなく感じてしまう。ICT を使って教科書の地図を少しアレンジすることで、両者にとって程よい難易度の地図を準備することができた。